

令和7年度年間指導計画・評価計画(3年公民的分野)担当:新坂

月	単元名	時数	時限	学習の目標(学習課題)及び内容	主な評価			おもな評価規準
					①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
4 ~ 5	第1章 現代社会と私たちの生活 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方や考え方	8	1~5 6~8	現代社会が抱える諸課題や日本の文化「現代の日本や世界の3つのキーワードについて考えよう」 現代社会の見方・考え方「マンションの暮らしをよくしよう」	○ ○	○ ○	○ ○	①③「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」「日本が誇る文化」「持続可能な社会」などの現代日本の特色や課題がわかるテーマから自分が関心ある物を1つ選び、調べてまとめることができる。 ②現代日本の課題について考えることができる。【ICT活用】 ①グループ活動を通して効率と公正、対立と合意という公民的分野の授業の基本的な概念を理解することができる。②マンションの共同生活または地域のカラオケ店のルールについてグループで考えることができる。【ICT活用】
5 ~ 7	第2章 個人の尊重と日本国憲法	13	9 10 11~12 13~18 19~20 21	人権の歴史「基本的人権が認められてきた歴史を復習しよう」 日本国憲法の特色と国民主権「日本国憲法にはどのようなことが書かれているのか？」 平和主義「平和主義について改めて考えよう」 基本的人権の尊重①(自由権・平等権・社会権・人権を守るための権利) 基本的人権の尊重②(新しい人権・グローバル社会と人権) 地域の人権課題「ハンセン病はどのような人権侵害が起こったのか」	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	①基本的人権の理念が人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であり、価値あるものであることを理解し、その知識を身に付けている。立憲主義が重要な理由を人の支配と被支配の違いや憲法の役割に着目して、適切に表現している。 ①小学校の学習を確認し、日本国憲法の項目を調べ、おおまかにどのようなことが書かれたものであるかを読み取ることができる。①国民が主権を持っているということはどのようなことを理解している。憲法改正の手続きを理解し、なぜこのような硬制憲法になっているのかを理解している。 ①日本が平和主義を掲げる理由について本文の読み取りを通して理解している。②国際平和のために日本が果たす役割について日本の立場を踏まえて適切に表現している。 ①様々な人権が生まれてきた背景をグラフなどから読み取り、基本的人権の理念は、現代の社会生活における人間の生き方の指針となる考えられることについて理解し、その知識を身に付けている。②自由権や社会権・平等権に関わる具体的な事例について、多面的・多角的に考察している。③自分の身近な生活の場面で関わる人権について関心を持って考えている。 ①人権についてはわが国だけでなく世界共通で取組を行っていることを理解している。②③マスメディアやSNSの普及により、新しく出てきた人権について自分の生活と合わせて主体的に考えることができる。 ②ハンセン病の隔離政策でこれまで学習してきた中のような人権が侵害されたことを考える。 ③ハンセン病問題に関心を持ち、過ちを繰り返さないようにしていく。
7 ~ 9	第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治	5	22 23~24 25 26	民主主義と政治「政治とは何か？」 政治参加と選挙「日本の選挙の制度について理解しよう」 政党と政治・マスメディアと世論「日本の政党政治はどのようなものか」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	①世界ではいくつかの政治体制があることを理解している。②政治とは何かを具体的な例をもとに考えることができる。③政治とは決して自ら進んでではなく、身近な存在であることに気づき、意欲的に追究しようとしている。 ④現在のわが国の選挙制度を理解し、どのような選挙の課題があるのか、また、政治に参加するにはどのような方法があるのかを理解することができる。 ①政党が民主政治に果たす役割を理解している。③民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
9 ~ 10	2節 国の政治と仕組み	15	27 28 29~31 32~33 34~40 41	国会の地位と仕組み・働き「国会の仕事はどのようなことをしているのだろうか？」 行政の仕組みと内閣、行政改革「内閣と国会は何か違うのか？」 裁判所の仕組みと働き、人権の保障「民事裁判と刑事裁判の仕組みを理解しよう」 裁判員制度と司法制度改革「裁判の課題を理解し、裁判員制度について考えよう」 三権分立「三権の関係を理解しよう」	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	①資料から参議院と衆議院の違いを読み取り、衆議院の優越が認められていることを理解することができる。国会の地位や法律制定の流れ、その他の国会の仕事について理解している。②国会が「国権の最高機関」とされている理由について、民主主義に着目して考察し、適切に表現して理解している。 ①内閣の仕事と国会の仕事の違いを理解している。議院内閣制などの国会と内閣の関係について理解している。②現在の日本の行政の課題について関心を持って追究し考えることができる。 ①民事裁判と刑事裁判の違いを理解し、裁判の基本的な流れを理解している。諸資料から裁判の課題について読み取ることができる。②裁判によって守られている人権について、2章の学習を振り返りながら考察し、表現している。 ①②③裁判員制度が身近な制度であることを理解し、模擬裁判では自ら考え主体的に参加している。また、裁判員制度の映像から裁判員制度の概要をつかみ、理解することができる。【ICT活用】 ①学習してきた司法権、立法権、行政権について各々の関係を、表や図にわかりやすくまとめることができる。
11	政治的分野のまとめ	5	42~46	政治的分野に関するディベート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	①②③「選挙権を18歳」「死刑制度」「男女別姓」などのこれまで人権や政治で学習したテーマの中から一つについて、諸資料を活用して、体系的に取り組み、自らの考えをまとめ、ディベートの場で発表できる。
11	3節 地方自治と私たち	5	47~48 49 51	地方自治とその仕組み、課題と住民参加「地方の政治と財政について理解しよう」 清瀬市の課題「清瀬市を例に住民参加と財政について考えよう」	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	①地方公共団体の仕事や地方自治の仕組みを理解している。資料から、国政との違いを見いだしている。②住民参加が重要な理由について、民主主義の観点から考察している。 ①②統計資料などから清瀬市の課題を読み取り、その課題について考えている。③自分の住んでいる地域についての課題を主体的に考え、より良い地域になるように考えようとしている。【ICT活用】
12	第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済	4	52 53 54~55	経済とは何か。貨幣の役割「経済とは何かを理解しよう、貨幣の役割を考えよう」 家計シミュレーション「1人暮らしのシミュレーションをしよう」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	①③2年次の金融教育を基に経済とは何かについて、自らの生活と照らし合わせて、主体的に追究しようとしている。①経済とは、日々行われている消費・交換・生産から成り立つ活動であることを理解している。また、現代では貨幣を媒介して経済が成り立っていることを理解している。 ①②自分が一人暮らしをするなら、どのような暮らしをするかを想像し、考えることができる。自らの家計をシミュレーションすることで、経済では、日々選択が行われていることに気づくことができる。【ICT活用】
12 ~ 1	2節 生産と労働 3節 価格の働きと金融	14	56 57~69	契約と消費者の権利「契約とは何か、また消費者を守る仕組みを理解しよう」 コンビニエンスストアの経営を通して、経済の仕組みを学ぼう(流通、企業、労働、市場経済と価格、金融)「コンビニエンスストアを経営しよう」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	①消費者の権利がどのようにして生まれてきたのか、権利とともに義務もあることについて理解することができる。②立した消費者であるためにはどうすべきか、判断や責任に着目して考察し、表現している。 ①シミュレーションを通して、企業の目的や需要と供給の関係、労働者の権利や資本主義経済の基本的事項について理解して、その知識を身に付けることができる。①市場経済と価格の関係について最終のグラフに示すことができる。②③コンビニエンスストアを経営するシミュレーションに主体的に取り組み、考える事ができる。【ICT活用】
12 ~ 1	4節 政府の役割と国民の福祉	4	70 71 72~73	財政と政府の役割、景気循環「景気を安定させるために、国は何をしているのだろうか？」 少子高齢と財政・社会保障問題「社会保障の問題について考えよう」	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	①景気変動の様子を曲線グラフから読み取ることができる。また、好景気や不況の際にどのような現象が起き、それに対し、企業や政府がどのような活動を行うのかを理解することができる。 ②現在の日本の大きな課題である少子高齢化と社会保障問題について理解し、日本が抱える財政問題・これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現している。
1 ~ 2	5節 これからの経済と社会	4	74 75 76 77	環境保全とCSR「企業の社会的責任とは何か」 為替とグローバル経済「円高・円安とはどのような現象か理解しよう」 コンビニエンスストアの経営を基に販売する弁当を企画し、市場の動きと経済や、国民の生活と政府の役割について「これまでに学んだことを生かして企画書を作ろう」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	①高度成長期には公害問題が発生したことを受け、現在の企業は利潤を追求するだけでなく、環境保全にも力を入れていることを理解する。②これからの社会に必要な量かについて考察している。 ①グラフなどの諸資料から日本経済のグローバル化について読み取ることができる。円高・円安の為替の仕組みを理解し、それぞれ日本の経済にどのような影響を与えるのかを理解することができる。 ①③自身のコンビニエンスストアの経営を基に販売する弁当を企画し、市場の動きと経済や、国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。
10 ~ 11	第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み	6	78 79 80 81 82 83	国際社会における国家「国家とは何か？」 国際連合の仕組みと役割「国際連合の仕組みと役割を理解しよう」 地域主義と経済格差「EUなどの地域機構にはどのようなものがあるか理解しよう」	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	①②③日本の今日の課題について理解し、領土問題などを中心に関心を持って考えることができる。また、主権国家とはどのようなのかを理解している。【ICT活用】 ①国際連合の加盟国数の変化や分組金・職員数などの資料から国際連合の役割や課題を読み取ることができる。また、国際連合の仕組みを図にまとめることができる。国際連合の成立の歴史的過程や目的を理解し、諸機関の役割を理解することができる。②国際連合の活動に対する日本の役割について、国際連合の役割に着目して考察し、表現している。 ①世界全体の枠組みでは自由貿易が進まず、EUなどの地域機構でのまとまりが増えていることを理解している。②日本の貿易の課題やTPP加盟問題などについて考えることができる。【ICT活用】
12 ~ 2	2節 さまざまな国際問題	6	84~86 87~89	地球環境問題・資源エネルギー問題「地球環境問題とその対策を理解しよう」 貧困問題と新たな紛争「貧困や紛争の原因を理解しよう」	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	①③地球環境問題を扱った映像に関心を持って観て、どのような問題が起きているのかを理解している。また、その他にも様々な問題があること、その問題に対してどのような取組が行われているのかを理解する。②地球規模の環境問題について、持続可能性の観点から考えることができる。【ICT活用】 ①③映像や諸資料からパレスチナ問題や南北問題など世界では様々な問題や紛争が起きていることを理解することができる。【ICT活用】
	3節 これからの地球社会と日本	5	90~94	現代日本の役割、SDGs「環境問題や貧困・紛争などの問題に対して、日本や世界はどのような取組をしているのかまとめるべきなのか」	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	②これまで学習してきた日本と世界の諸地域の状況から、日本が果たすべき役割について考え、レポートにまとめることができる。③【ICT活用】
	その他の社会科的活動	6	95~100	1. その時の時事について 2. 理解が不足している単元の補充学習 3. 修学旅行に関わる社会科的事象の学習	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	①②政治や経済など公民的分野の学習に関わるニュースなどをタイムリに取り上げた際に、関心を持って考えようとしている。公民的分野での基礎的・基本的な学習において不足がみられる部分について、補充学習を行っていく。その知識を身に付けている。

観点	観点の内容	評価方法
① 知識・技能	地理的分野・歴史的分野で身に付けた技能を活用し、諸資料を読み取ることができる。政治・経済などに関する基礎的・基本的な知識・概念を理解している。	定期調査・ワークシート
② 思考・判断・表現	対立と合意・効率と公正、協調、持続可能性などに着目して日本国憲法を基に、現代社会について多面的・多角的に考察・構想し表現している。	定期調査・ワークシート
③ 主体的に学習に取り組む態度	日本国民、国際社会の一員として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	ワークシート

それぞれの観点ごとに 80%以上ならA、50%以上ならB、50%未満ならCという評価になる。
評定は全ての観点の点数を合計して、90%以上なら5、80%以上なら4、50%以上なら3、20%以上なら2、20%未満は1となる。